STUDY TOUR in USA 2019

ASUWA English Course

No.5　DAY 5　February 14, 2019

【ボッセル警察見学と図書館での授業】

市内の雪の状況はほぼ変わらず、通りの路肩や細い路地の雪がまだ残る中、前日の夕方には学区全体の休校が決定されました。

ボッセル高校での英語授業予定５日間のうち、これで４日が休校になったわけです。この状況の中で、現地研修のコーディネーター池上さんや ESL の先生方が我々研修団のために何とか研修ができるようにと、前日からいろいろと関係機関の調整のために走り回ってくださいました。その結果、午前中にボッセル市警察の見学と、午後はボッセル図書館内に場所をお借りしての ESL 授業ができるようになりました。

足羽高生は、これまでのホームステイの中で、映画やショッピングモールなどで互いに何人かとは会った人もいましたが、全体で集合するのは初日に解散した後これが初めての機会となったのです。

ボッセル市警察署の建物

久しぶりの集合に笑顔

集合場所の警察署の前では、集まってくると、久々に会えた安心感やうれしさで、笑顔がこぼれていました。思いのほかみな元気そうで、皆のことを心配していた引率の先生方もほっとしていました。

（次ページへ）

時間が来ると、説明・案内を担当してくださる警察官の方が建物の前に現れ、気さくにあいさつをしてくださいました。まず研修室に入って、防弾ベストの機能、手錠などの持ち物などについて説明を聞いたあと、記録室、留置場、射撃練習場、また、パトロールカーや白バイなど、署内を回りながら見せてもらいました。

担当のウィルソンさんとガルシアさん

熱心に説明を聞いています

防弾チョッキを着せてもらいました。重い！

射撃練習場

パトカーの中を見せてもらいました。ランプと大音量のサイレンも。

手錠を手に取って見せてくれました。

代表者お礼のあいさつ。

記念品としてメガネのキーホルダーを進呈。

警察署内の見学が終わった後、そのまま研修室をお借りして昼食の時間をとりました。徒歩でボッセル市図書館まで約１０分の移動。午後からは図書館のホールをお借りして、ESL の先生方による英語の授業が行われました。

ステイ初の弁当？

雪の残る中、徒歩で移動

図書館のホールで ESL の授業

（次ページへ）

まず宿題の確認としてグループ内で自己紹介をしあい、それを第三者に紹介する活動を行いました。次に、今日はバレンタインデーなので、ホストファミリーへの感謝のしるしにバレンタインカードを書きました。

ホストファミリーも参加してくれました。

＜生徒からのコメント＞

<u>永善紗貴保</u>

今日はホストファーザーDavid さんの誕生日だった。だから家には足羽の生徒７人が集まった。みんなでスノーボードをした。温泉に入ったりピザを食べたり、ケーキを食べたりした。英語を話すのは難しかったけれど、私なりにジェスチャーをしたりして頑張った。また私が逆に日本語を教えたりして互いに勉強になったと思う。残りのホームステイも自分から積極的に話しかけていきたい。

（次ページへ）

菅原樹里

足羽高校を出発して、少しずつアメリカに近づいていくにつれて、期待と不安と緊張とがたくさん混じった不思議な感情でいっぱいでした。

2.10 ホストファミリーや、ボッセルの先生方とお会いし、アメリカでの語学研修が始まりました。大雪が原因で休校になることが続いたが、私のホストファミリーは、嫌な顔をせずに、色々なところに連れて行ってくださいました。

最初に連れて行ってくれたのは、スターバックス。シアトルといえばスタバ！というほどシアトルだけでも 200 店舗以上のスターバックスがあります。続いて、ホストファミリーが働いているハンバーガーショップ、スーパー、映画館、ショッピングモールと私が行きたいところや、アメリカらしいところにたくさん連れて行ってもらいました。特に一番楽しかったのは、ショッピングです。ホストファミリー以外の英語を話す人と初めての会話でした。I am nervous. ただそれだけの感情で、いっぱいいっぱいでした。でも、私は英語が話せないから、ゆっくりのスピードでお願いします、と店員に頼むとアメリカの人はとても親切で、私にわかりやすく、助けてくれました。

シアトルに来て、たくさんの人と出会う中で、1 人ではやっぱり何もできないことがよく分かりました。日本では、私は日本人だから言語もわかるし、どこになにかがあるのかすぐわかるから、1 人で出来ていると勘違いできるかもしれないけれど、日本語が通じないところや、初めていくところはどうしても、誰かに何かに頼らなければ、なにもできません。その時に大事なのが、日頃のコミュニケーション能力だったり、挨拶だったり、普段してきたことしか、初めてのところでは出ないと思いました。普段家でお手伝いしていれば、May I help you？と聞けるし、普段挨拶ができれば、誰かと知り合うことも、なにか教えてもらうこともできるかもしれません。

アメリカに来たことで、当たり前だった日々がまた違う角度の視点から見ることができた気がします。そして、まだまだ英語で会話ができない自分の未熟さもわかり、これから英語をもっと頑張って、またいつかシアトルに戻ってきて、あの素敵なホストファミリーと会えた時に、成長した自分を見せることがいま密かに思っていることです。そして、この経験を通して、感じたことをどう生かすのか、絶対に無駄にしないように、まずはこの残り 1 年の高校生活を大事に、感謝してしながら充実させようと思います。

本当に良い語学研修で、素晴らしい時間を過ごすことができました。Thank you!